

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	神埼市立西郷小学校
1 前年度 評価結果の概要	・学力向上に向け、「子どもの出番が増える授業づくり」に取り組んだ結果、考えや思いを表現する児童は増加の傾向が見られたが、学力の定着には依然として課題が残った。 ・望ましい生活習慣の形成については、委員会活動を中心とした啓発により、児童・保護者の意識向上が図られており、今後は家庭と連携した分かりやすい取組の充実が求められる。 ・心の教育や特別支援教育における職員の専門性向上、地域との連携には一定の成果が見られた。働き方改革については、引き続き全職員で意識を高めながら推進していく必要がある。

2 学校教育目標	教育目標『ともに学び、ともに伸びゆく西郷っ子の育成』校訓 ～学び 愛し 翔る 西郷小～
----------	---

3 本年度の重点目標	① 協働的な学びを通して主体的に学ぶ力と表現力を高め、基礎・基本の定着による学力向上を図る。 ② 互いの違いやよさを認め合い、思いやりの心をもって安心して生活できる集団作りに取り組む。 ③ 自己調整力を育み、目標に向かって最後までやり抜く心を育てる。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・校内研究を中心とした授業改善 ・陰山メソッドによる基礎学力・集中力の向上	○単元ごとの評価テストの「知識・技能」の観点で平均85点以上 ○百ますひき算で下学年3分以内、上学年2分以内を達成する児童が80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえ、校内研究を柱に「子どもの出番が増える授業づくり」に取り組む。 ・スキルタイムでデジタル百ますに取り組む、個人や学級全体の伸びを可視化し、教師がフィードバックしていく。		・		・
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達に對して優しい言葉掛けや優しく接することができた」と回答した児童85%以上。	・ふれあい道徳で、「B主として人との関わりに関すること」「C主として集団との関わりに関すること」の内容で参加型の授業を行い、保護者や地域に公開する。 ・日常の優しい言葉掛けや思いやりの行動の価値付けと振り返りを継続する		・		・
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した職員90%以上。 ○児童アンケートで、「学校は楽しい」と回答した児童90%以上。	・年3回職員研修を行い、開発の生徒指導やいじめ、虐待等について見識を深める。 ・毎月「心のアンケート」、年2回の「いじめアンケート」「お話週間」。「QUTアンケート」の実施分析により、いじめの早期発見や安心安全な学級づくりに取り組む。		・		・
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒85%以上 ●③「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・全職員が、子どもの良さに目を向け、よい行いを、通信や放送、学級活動等で積極的に伝える。 ・「学校行事、体験的な学習や総合的な学習等を通して、夢や目標につながるよう、「めあて」と「ふりかえり」のある学習活動をもとに、自己調整力を育む単元計画を立てる。		・		・
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○「ゲームやテレビ視聴について、家庭でのルールを話し合った」と回答した家庭が80%以上	・各クラスで、「ゲームやテレビ視聴について、家庭でのルールを決める」とこと呼びかけ、定期的に振り返り、話し合う時間を学級や家庭で設定する。		・		・
	●「健康を考えて行動できる能力の育成」	●「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童生徒80%以上	・「保健学習」において、栄養教諭や保健教諭と連携し、健康に関する内容を取り扱う。 ・児童の実態や学習内容を踏まえ、健康的な生活について、各クラスで継続的に振り返りを行う。		・		・
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日の設定と推進。 ・各部での業務分担、計画的な業務推進を行い、年休取得を推進する。 ・結果を3か月ごとに把握し、働き方改革と心身の健康の保持に努める意識を高める。		・		・
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育の視点をもち、日々の授業や児童への指導を行うことができたと回答した教員90%以上。	・「合理的配慮」「インクルーシブ教育」について、共通理解するための研修を行う。 ・授業交流期間に特別支援学級を参観し、校内で共通して使える、視覚支援、指示の出し方の工夫、環境調整について学び、日々の実践に生かす。		・		・
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○地域社会との協働・連携	○地域人材を活用した教育の推進	○教育活動において地域人材を活用し、教育活動が充実したと感じる教員80%以上	・学校行事等において、積極的に学校支援の依頼を行い、地域の教育力を学校教育に生かす。		・		・

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・
----------------	--------